

第2学年4組 英語科学習指導案

学 校 名 松江市立東出雲中学校

指導者氏名

1 単元（題材）名

Unit4 Homestay in the United States *New Horizon English Course Book 2*(東京書籍)

2 単元（題材）の目標

○日本と外国の文化・風習の違いについて英語で紹介する。

- ・仲間と協力してグループやペア活動を行い、間違いを恐れず言語活動に取り組む。
- ・助動詞を含む文の形、意味、用法を理解する。

4 指導と評価の計画

(1)単元の評価基準

(ア) コミュニケーションへの関心・意欲・態度	(イ) 表現の能力	(ウ) 理解の能力	(エ) 言語や文化についての知識・理解
①協力してグループ活動やペア活動を行っている。 ②間違いを恐れず、言語活動に取り組んでいる。	①日本と外国の文化の違いについての説明を、目的に応じて適切に話すことができる。	/	①助動詞を含む文の形、意味、用法を理解している。 ②日本の文化と外国の文化の違いを理解している。

(2)単元の指導計画と評価計画（全8時間）

次	時間	学習内容	評価	
			評価基準	評価方法
1	1	・新出文法の理解 (have to / don' t have to/ must / mustn' t / will) ・東出雲中の校則を英語で書く	(ア) ①	観察(グループ活動)
	2	・culture quiz① ・前時の復習 ・新出単語の理解(ペア活動) ・本文理解と音読(SO) ・ペアで助動詞 have to/ don' t have to を使って対話する	(ア) ②	観察

2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・culture quiz② ・新出単語の理解(ペア活動) ・新出文法の理解(will) ・本文理解と音読(D) ・ペアで助動詞 will を使って対話する 	(エ) ① (ア) ②	小テスト 観察、ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ・culture quiz③ ・新出単語の理解(ペア活動) ・must/ mustn' t の復習 ・ペアで助動詞 must / mustn' t を使って対話し、自分のルールを英語で書く ・teacher' s talk (ホームステイ体験談) 	(ア) ②、(エ) ①	観察、ワークシート
3	5	<ul style="list-style-type: none"> ・culture quiz④ ・新出単語の理解(ペア活動) ・クラス半分本文理解 (R for C) ・残り半分資料を読む (時間を区切り、交代する) 	(エ) ① (エ) ②	ワークシート 観察
		<ul style="list-style-type: none"> ・新出単語の理解・復習 ・単語小テスト ・culture quiz⑤ ・Speaking Game ・資料を読む(2人で1冊) 	(イ) ①	A L T との会話
	7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞の確認小テスト ・culture quiz⑥ ・グループで日本の文化と外国の文化の違いのクイズを作る 	(エ) ① (ア) ①	小テスト 観察、ワークシート
4	8	<ul style="list-style-type: none"> ・発表練習 ・クイズ発表 ・自己評価 / アンケート ・teacher' s talk (ステレオタイプについて) 	(ア) ②、(イ) ① (エ) ②	観察 ワークシート

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- 協力してグループ活動やペア活動を行っている。〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕
- 助動詞を含む文の形、意味、用法を理解している。〔言語や文化についての知識・理解〕

(2) 本時の展開

学習活動と予想される児童生徒の反応	評価と教師の支援等
<p>○Greeting</p> <p>○助動詞の確認小テスト 小テスト提出後、助動詞の使い方を確認する。 口頭で助動詞のパターンプラクティスを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の挨拶や教師の質問に英語で応えることを通して英語を使う雰囲気を作る。 ・本時の授業で使いやすい助動詞をメインに復習する。 ・前時までの culture quiz を使って、助動詞の使い方や意味を確認するとともに、生徒がクイズ作りを意識できるようにする。
<p>○teacher's culture quiz</p> <p>○today's aim グループで culture quiz を作ろう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーションとしてクイズを出題する。
<p>○クイズ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の本や情報カードを使って、興味を持ったことや驚いた文化・習慣の違いについて話し合い、ワークシートにクイズを作成する。 クイズには助動詞を含める。 ・クイズの英作文ができたら、教師(T 1 : A L T T 2 : J T E)にチェックしてもらう。 ・チェックをしてもらったグループは掲示物を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の意見交換が円滑に進むよう支援する。 ・英作文で支援が必要なグループには、クイズがどのような日本語になるか一緒に考え、その後必要に応じて英語の語順などを示し支援する。 ・特に支援が必要なグループには、教員の Culture Quiz をひな型に日本語文章を示し、英作文の支援をする。
<p>○Consolidation</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回はクイズ発表を行うことを伝え、準備ができていないグループには、休み時間等に完成する計画を立てさせる。

(3) 本時の評価

評価の観点	十分満足できると判断される児童生徒の具体例	おおむね満足できると判断される児童生徒の具体例	支援を必要とする児童生徒への指導の手立て
(ア) ① 協力してグループ活動やペア活動を行っている。	グループのメンバーと協力してクイズ作成に取り組み、お互いに教えたり教わったりしている。	グループのメンバーと協力してクイズ作成に取り組んでいる。	クイズ作成に取り組んでいない生徒には、分からない所を明確にして解決の手立てを考え、活動への前向きな態勢を支援する。
(エ) ① 助動詞を含む文の形、意味、用法を理解している。	助動詞の形・意味・用法がわかり、小テストで10問中9問～10問正答する。	助動詞の形・意味・用法がわかり、小テストで小テスト10問中5問～8問正答する。	クラス全体に向けて、つまづきやすい個所を中心に再度説明する。

- 6 研究の視点（児童生徒等の実態を考慮した授業のために講じた手立てについて協議して欲しいこと）
単元の目標を達成するために、図書館資料を使ってクイズ作りを行ったことは有効だったか。

